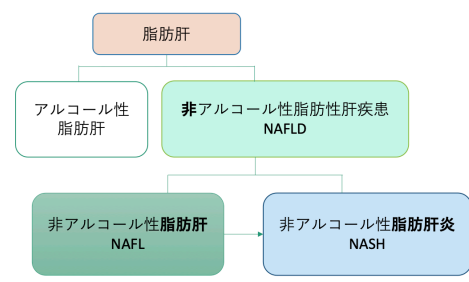


非アルコール性脂肪性肝疾患とは？

非アルコール性脂肪性肝疾患 (non-alcoholic fatty liver disease: NAFLD) は、主にメタボリックシンドロームに関する諸因子とともに、組織診断あるいは画像診断にて脂肪肝を認めた病態です。アルコール性肝障害、ウイルス性肝障害、薬物性肝障害などの肝疾患は除外します。非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) は、病態がほとんど進行しない非アルコール性脂肪肝 (NAFL) と、肝臓の線維化が進行する非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) に分類されます。



肥満人口の増加を背景に非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の有病率は上昇していると考えられます。

原因と予後は？

肥満とそれに伴うインスリン抵抗性が主な原因です。危険因子には、肥満、糖尿病、高脂血症、高血圧などがあります。生命予後は**肝臓の線維化の進行度**で決まります。脂肪肝や肝臓の線維化の進行度の診断は、肝生検や血液検査 (肝機能検査、肝線維化マーカー等)、画像検査 (腹部超音波検査、超音波エラストグラフィ、MRエラストグラフィ) などによります。

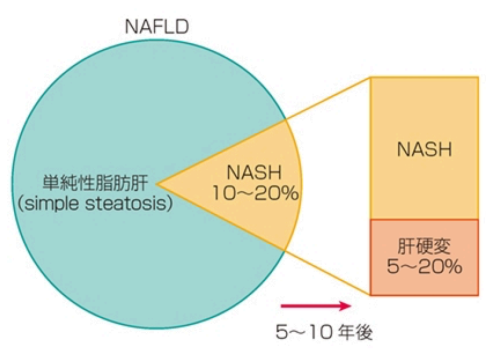


図1 NAFLDの予後

日本肝臓学会
NASH・NAFLDの診断ガイド2010より

脂肪肝を放置しない事が大切です

非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の治療は？

肝細胞の脂肪変性から進展すると考えられる事から、**脂肪肝を放置しない事が大切です**。背景にある肥満、糖尿病、脂質異常、高血圧の改善が重要です。食事、運動療法による体重減少は NAFLD/NASH の肝機能および肝組織像を改善します。ゆるやかな体重減少が推奨されており、5%の体重減少により **QOL** の改善、7%の体重減少により肝組織像の改善、10%の体重減少により肝線維化の改善が示されています。

文責 澁谷友美



日本超音波医学会
脂肪肝の診断基準より